

まつえアドバンス・ケア・プランニング普及啓発推進協議会

R8 年度第1回 ACP 事例検討会

7月16日に R8年度第1回の ACP 事例検討会を開催いたしました。
この事例検討会は、経験された事例を共有することで、多職種の方々の終末期支援の助けとなることや、顔の見える関係構築を目指して行っています。

1. 事例紹介 「認知症のある進行大腸がん患者の在宅看取り支援」

- ✓ 発表者
訪問看護ステーションめぐる 看護師 松崎 由衣 氏
在宅ケアクリニック松江 院長 佐々木 修治 氏
- ✓ コメンテーター
めぐる居宅介護支援事業所 所長森脇 あゆみ 氏



今回は、進行大腸がん患者の最終看取り期の在宅療養を
医師・訪問看護師・ケアマネジャーでタッグを組んで細やかに支援された事例でした。
また、亡くなられた後の家族の支援では、時期を空けて重ねて行われたところが、患者に
合った関わりを大切にされていると感じました。

2. グループトーク 今回は発表者から参加者への Question について話し合い

*たくさんのご意見をいただきました中、一部を掲載いたします

Q1. 「病状が急変して治療の選択肢がなくなる」ということを日常の関わりの中でどのように伝えていきますか？

A. 看取りの過程についてパンフレットを用いて説明し、理解できるように関わる

Q2. 家族の意向が揺れたとき、訪看・ケアマネさんはどのようにキャッチして医師に繋が
ていますか？

A. 「気になることや心配なことはないですか？」と聞きながら、気持ちが揺れることを肯定し受け止める。事務所で共有して医師に繋げる。

Q3. 本人の意思表示があまりできず家族からゆっくり聞ける時間がなく、本人の思い
が良くわからない場合どう声掛けしますか？

A. 今やりたいことや、食べたいものなど「今」を大事にする質問をしてみる

3. 質疑応答

Q1. 関わりの短いケースに関わった経験から、今後どんな支援を行おうと思うか？

A. 看護師⇒ 本人の意向を聞ける時に出来る限り早めに聞こうと思った。
息子の迷いや気持ちの変化を受けて焦るのではなく、こちらから色々な
方法を提示していく必要がある。

A. 医師 ⇒ 初回で絶対的な信頼関係を築くことが大切と考えている。初回の面談が一発目勝負と思って気合を入れて話をきくようにしている。

Q2. ケアマネジャーのシャドーワークについてどう考えているか教えて？

A. ケアマネジャー⇒ 自分が何を出るか考えた時、シャドーワークではあるかもしれないが、必要かどうかをケアマネ自身が見極めて、必要な支援を行うことも重要と思う。

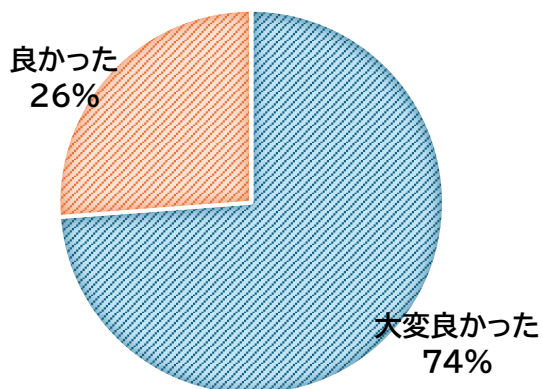
Q3. ステント対応なしと説明した時の息子の反応は？

A. 医師⇒ 残念そうな顔をしていた。ただ、このことを言われたきっかけが、テレビの番組でステントのことをして、それを視聴したからだった。今後の病状や状態変化を考えこの方法で良かったと考えている。

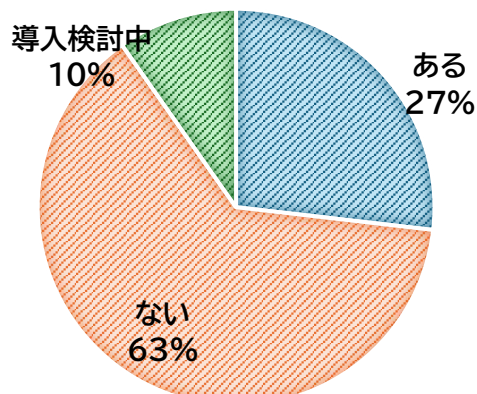


4. アンケート結果

① 事例検討会の内容について



② 自施設で事例検討会を実施したことの有無



【コメント】

- ・今回は病院からの参加が多く、初めての参加者もあり、多職種とのグループトークで満足度が高かった。次回も参加したい意向もあった。
- ・コメンテーターとしてケアマネジャーの参加で、より幅広い視点での関わりについて学ぶ機会となった。

【今後事例検討会で希望する疾患等】

- * 認知症
- * 複数の家族が関わる場合で意向が違うケース
- * 私の思いをつなぐノートを活用した事例
- * 心不全、長い経過をたどった人
- * 誤嚥性肺炎や嚥下障害の方の ACP “最後まで口から食べる事など”